

蓬萊町だより

第30号
昭和58年9月
蓬萊町文化
第58号
昭和58年9月
蓬萊町文化
昭和58年9月
蓬萊町文化

蓬萊町界限(その三)

根津権現祭

林 順 信

昭和三年生まれの私の記憶に残る根津権現のお祭りは、たしか昭和七年から、昭和十五年くらいまでではないかと思う。根津権現の大祭は九月二十一日で、神社では毎年この日に大祭の儀式がとり行われている。本祭りとか、かけ祭りというの、お祝いする我々氏子の側の都合で、祭礼は、神社では毎年々々同じに儀式を行っているのが本来である筈のものである。記憶に間違いがなければ、根津権現祭は、昭和七年、九年、十一年と、奇数年に大祭があったと思う。当時は、今日と異って、交通事情もへたくりもないから、祭礼はちゃんと九月二十一日に行われた。その近くの土・日を選んでやるようになったのは、戦後も最近になってからである。通学している小学校の氏神様の日には、学校は休みとなったので、子供たちは、朝から祭り支度をして、山車を曳いたり、神輿をかついで町内を廻ってあることができた。根津、汐見、

追分、駒本などの各小学校は、九月二十一日はお休みだった。私の通っていた誠之は、白山神社の氏子町内であったが、大祭りはやはり九月二十一日なので、休みとなったので助かったことを想い出す。

現在も根津権現に保存されている三基の宮神輿は、何れも六代將軍家宣公寄進という大神輿で、台輪寸法は百六十一センチ、つまり五尺三寸大で、都内での最大の神輿であるばかりでなく、宝永年間の作としても、極めて貴重なもので、この神輿のうち一基が、戦前の大祭には、隔年で、氏子町内をかつがれて渡御した。かつが棒は四本ではなく二天棒で、白装束に黒い烏帽子(えぼし)をかぶった駕輿丁(かよちよう)に依って、しづしづとかがれて渡御した。若衆が掛声勇ましくかつぎ廻ったのではなかったにしても、矢張り神輿は、かつがれてこそ値打ちのあるもので、かつげないで渡御するのは恥ずかしいことなのである。あの大きな、まるで冴みたいなのが、ゆっさゆっさと揺られて目の前を通り過ぎる時には、驚きとも感動ともつかないものが全身に伝わってきて、あれから半世紀も経った今日でも、あの場面をはっきりと覚えていたのだから大したものであった。宮御輿は、蓬萊町会へは、匠大の坂上から真直ぐ西へ来て、藤矢さんのやっていた草津湯の角を塀に沿って右折、次に現在の田中歯科医院の辻を左

折して、旧電車通りに出て行った。宮神輿が近づく、それに先立って、電線工が走ってきて、路上に渡された低い電線や電話線を取りはづしてしまふ。それと同時に、旗竿の先に二又になった木を差し込んだもので、電線を上に持ち上げる掛りの人たちが数人やってきた。

蓬萊町の神酒所は、現在の田中歯科医院の場所、そこには、戦前は鯨井経師屋(表具店)があった。町の中の細かいことは、また後日述べることにして、この小さな四辻は、戦前の蓬萊町南部地区では、結構賑やかな場所であった。東北角の現在船橋さんの仕事場は戦前は、森川町の本郷館と同じく木造二階建ての下宿、菊池のさいさんの経営していた第三初音館で、東南角は、さつまいもの壺焼きで知られた青木(？)八百屋があった。残る西南角には煙草屋があった、店の前に二台程ガチャーン(今日のパチンコ)が置いてあった。現在、東大正門前の万定果物店と井上古書店との横丁に鯨井表具店があるので、先年、私が訪ねたところ、この鯨井さんは、蓬萊町の鯨井さんの従兄弟で、蓬萊町の鯨井さんは、戦後は熊谷市に移られて、健在ということであった。

閑話休題、鯨井経師屋は、お祭りとなると、店の下に真砂をびっしり敷きつめ、青竹で門(かんぬき)を作って、軒には尺玉の赤提灯を連れ、中に町会の神輿を飾っていた。御本社神輿は、

町会の神酒所の前で、一時休止して、町会役員は代表してお払いを受けるので、神幸の道筋は、大概、町会神酒所の前を通る様になっていた。あの御本社神輿が、現存して、今日でも我々が拝めるのは倅せなことだが、ぜひかつがれて神幸されることを切望するものである。あの大神輿の胴はかなり太くて、標準の大人なら、あくらをかいて中で坐れる程の大きさである。

蓬萊町の町会神輿は、戦前は、現在もある大人の神輿と、町内の鍛冶屋の福島さんの手造りの小人神輿の二基があった。大人の神輿は、昭和三年の今上天皇御大典の年に、蓬萊町の南の地区の人たちに依って新調されたものと伝えられるもので、従って台棒の金具には「有志」という文字が刻まれている。黒漆塗の二尺大の神輿であるが、古典的な形で、四方扉となっていて、現在ではあれだけの品格は出せないと思われる名品である。

一年おきの大祭には、各町連合神輿が行われた。集合場所は、住友銀行横の大観音通りで、第一番浅嘉町、第二番駒込市場、第三番本郷有町、第四番は忌み嫌って欠番、第五番はわが蓬萊町、第六番は、上千駄木、以下は中千駄木、下千駄木、追分町、東片町などが続いていた。当時のお祭りは、平日であっても、界限は祭一色に塗りつぶされ、万灯や半天、半ダコや花笠を光る運び屋台が、肴町の角や、農学部の際

上に出ていたのが印象的だ。

第一番の浅嘉町は、「土物店」(つちものだな)と俗に言われた青果市場を控えた盛業の土地柄で、町会役員の派手を「首ぬき」を誇らしげに、先頭を受け持つのに恰好な町会で、行列は、大観音通りを左折して、電車通りを農学部前へ、それから左折して、弥生町、下谷茅町から池之端七軒町へ出て、根津の通りを宮永町、八重垣町と渡御して、表門から神社参拝して、逐次解散になったものと思う。第二番の駒込市場の神輿は大したもの、私の子供の時の記憶を辿ってみると、台輪は恐らく三尺五寸大で、屋根紋が権現様の卍巴(まんじどもえ)を三つ頂いて居り、二交代も三交代もいる若衆が前後を警固しての渡御風景は勇ましく、「それぞれ市場の神輿だよ、どいてどいて、道をもっと空けてくれ」と、もの捷い勢いでかつがれて来たのを想い出す。この青果市場は、現在の駒本小学校のところにあったが、昭和十二年に巣鴨の北の豊島市場に移ってしまった。あの神輿は惜しくも戦災で有烏に帰したという。

第三番の有町のは、現在もある名品で、池之端七軒町にいた「宮松」が拵えた、細工の凝った神輿で、石屋の酒井八右衛門さん(根津権現その他に天水桶を納めた、東京でも著名な人)の肝入りで昭和五年に作った神輿である。

わが蓬萊町は、戦後は暫らく、金子のおやじ

さんが持っていたが、戦前は、御幣(おんべ)を持っていたのは、溝口理髪店の先代で、大変なお祭り好き、蓬萊町独自の渡御の時は、「本米は、これで町内巡幸は終わりと致しますが、若し、みなさまが御賛同下されば、本郷三丁目から池之端へ出て、遠乗りと参りますが如何なものでございましょう」と、皆が賛成するのをちゃんと御存知で、そんなことをメガホンを片手に喋ってから、遠征したものだ。大抵の人々は、昔は「わっしょい、わっしょい」の掛声でかついだものが多いことが多いが、蓬萊町では、子供の時分はいざ知らず、大人になってからは、「わっしょい」は恰好が悪いので「おやさこりやさ おやさこりやさ」とかついでいた。当時は、昼間からお酒は飲み放題だったから、若衆が途中で、突然よろけたり、膝を落とすので、神輿が急に傾いて危険なことが暫々あった。私は子供の時から背が高かったので、日中戦争が始まってからは若衆が出征して、かつぎ手が足りなく、早くも大人の神輿を朝から晩までかついでいた。今日では出鱈目だが、戦前は背が高くないと、神輿の前の方が高くなるから、これでない、と、神輿の前の方が高くないから、見た目に恰好をよくするためであった。何しろ朝出たつきり、夕方になって神酒所に帰って来るまで長丁場で渡御した。遠乗りは神社参拝が名目で、そうでないと他町内をそん

なに堂々と渡御できなかつた。昼食は弥生町の異人坂の上の、中島弥田次（浜口雄幸の娘婿で大蔵大臣）のお邸で御馳走になったと思う。途中、電車通りでは、市電を五、六台停めなければどかない様にしていた。

蓬萊町の次には、上千・中千・下千（かみせん・なかせん・しもせん）の三基の兄弟神輿が続いて、これがなかなか美しかった。現在千駄木町会にある二尺五寸の大神輿を、千駄木町は三基揃えて持っていた。それから、これは今考えると惜しいのは、追分町の三尺の大神輿で、唐破風造りで、軒下の欄間の青い龍がなかなか印象的だった。洪木八百屋の大勢の若衆などが束になつても重そうな、本堂に堂々とした神輿だった。が、戦争中、軍に献納してしまい、今は上総屋関酒店に記念写真を一枚残すのみとなった。

戦争がまだ激化しない昭和十三、四年頃まではまだ食べ物もあったし、お酒もあった。大祭ではないが、「南京城陥落」の時には、京都では提灯行列が行われた。その時、蓬萊町では神輿を出すこととなり、夜、暗くなってから、お祓いを受け、夜道をついで町会に神輿を持って来たのが強く印象に残っている。途中、三谷のいわちゃん（巖さん）の酒屋の前では、

(3) 「酒やのけちゃんほ 塩まいておくれ」の定まり文句を叫んで、頭から塩をかけられたのを想い

出すのである。（別にいわちゃんの店はそうではなかったが、どんな酒屋の前でも必ずこう叫んだ。）

明治百年を迎えた昭和四十三年の大祭の時には、私はその日、丁度四十才になるので、溝口さんや、赤城さんに頼んで半天を一枚まわして貰って、蓬萊町の神輿をかつがせて貰った。今のかつぎ方は、矢鱈と飛んだり跳ねたりで、戦前の、長丁場をかつく半かつぎではないので、お祭りがすんでから二、三日這って歩く程、からだ中がいたんだ。子供の時だからだで覚えたことは、幾つになつても忘れないものである。

川柳……六句

長谷川 藤太郎

湯帰りの女の匂いとすれ違い
橋一つ越えれば国の名も変り
名月や立小便も出来かねる
観光団ガイドのお尻について行く
花嫁はアルバムどっさり持って来る
月冴えて財布は冴えぬ秋の夜

町会活動の概要

昭和58年6月から9月まで（4か月間）

総務部

昭和58年住宅統計調査について
総理府統計局において、昭和23年以来5年ごとに行っている調査ですが、本年がその調査年にあたります。

文京区役所から当町会に調査員の依頼がありましたので、当町会役員が指定地域の調査に伺います。その節には御協力下さいませ様お願い申し上げます。

調査日は、10月1日現在ですが、調査票は9月末日までにお配りします。後日の回収日までにご記載願います。

7/14 駒込防犯協会防犯運動打合せ会議
9/12 本郷消防協会秋の防火運動打合せ会議

防火部

8/31 区役所設置の町内街頭消火器の保守点検を行いました。

防犯部

7/14 防犯運動の一環として行われた防犯パレードに防犯部、婦人部が参加いたしました。

(4)

婦人部

1. 6月中にご協力頂きました日本赤十字募金額は、次のとおりでした。
金一二二、八五〇円也

2. 文京区主催の敬老天ぶら会は、9月12日に行われ、婦人部がお手伝いをいたしました。

3. 本年も町会員の長寿の方々の益々のご健康と敬意を表し、町会よりささやかながら祝品をお贈りいたします。「敬老の日」の行事として。

交通部

1. 6/13～6/22 全国交通安全運動が実施されました。期間中には、交通部・婦人部の部員が町内の交通安全の普及に努めました。

2. 秋の交通安全運動は、来る9/21～9/30まで実施されます。今回の重点指導項目は、二輪車の正しい運転マナー、車線の順守、無謀運転の取締り、お互いに交通事故根絶のため、安全歩行・運転に心掛けたいものです。

青年部

本年も町内皆様のご協力を賜りまして、恒例盆踊りを8/21～8/23の3日間、賑やかに催すことが出来まして誠に有難うございました。

3日間の参加延人員は、約1500名と盛会であったことを報告しておきます。

衛生部

7/12 本郷保健所から殺虫剤の配付がありましたので、地域担当役員を通じ各ご家庭にお配りしました。

文化部

文化部では、月1回の予定で「俳句の会」を催しております。ぜひ、ご同好の方々の参加をお誘いいたします。問合せは文化部・池田宅へどうぞ。10月は21日(金)午後七時から 於海蔵寺 自由に参加出来ます。当日会費 五百円

蓬萊俳壇

九月句会に於ける会員の作

| | |
|-----------------|-----|
| 萩寺になに祈りおる老夫婦 | 松男 |
| 盆踊り兵児帯赤く鼻緒また | 千重 |
| うす紅の雨にみまごうこぼれ萩 | 笑子 |
| 歓声はコートにひびきこぼれ萩 | スエ |
| 残り香にふとふりむけば萩の花 | 広明 |
| 今宵月の故里想う夫婦かな | 喜一 |
| 霧はれて街あたたかくうかび出づ | 貞子 |
| 萩の餅母のぬくもり伝え来る | あきら |

計報

当町会にお住いの方で、6月から9月中旬までの間に逝去された方々のご氏名は左記のとおりでございます。

謹しんで弔意を申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

平出尚隆様 岸田よし様 宇名公恭様
富谷栄二郎様 田川ひな様 早川清様

編集部

本年は、ことのほか残暑の酷しい毎日でしたが、やっと初秋を感じさせる今日此頃でございますが、皆様方には季節の替り目、充分ご自愛の程を。

「蓬萊だより」では第4号から歌・句壇欄を設けております。また今回は川柳のご投稿もありました。

記行文・自由詩なんなりと皆様のご投稿をお寄せ頂きたいと思っております。あわせて、ご意見等もございましたら文化部あてお知らせ下さい。TEL(八二三)一三六五 池田

編集委員 小林音吉 竹中一馬 猪熊良晃
高橋一郎 翁 松夫 池田 暉

※ 次回の発行は1月を予定しております。